

2017年10 - 12月期四半期別GDP速報（1次QE）公表に際しての  
茂木経済財政政策担当大臣談話

2018年2月14日（水）

1．本日公表した2017年10 - 12月期GDP速報では、実質成長率は28年ぶりの8四半期連続の前期比プラスとなり、前期比0.1%、年率に換算すると0.5%となった。

名目成長率は、前期比マイナス0.0%、年率に換算するとマイナス0.1%となった。

雇用・所得環境の改善が続くなかで、個人消費が2四半期ぶりの前期比プラスとなったことや、企業収益が過去最高を更新するなかで、設備投資が5四半期連続の前期比プラスとなったことなどから、民需の増加に支えられた成長となっている。

一方、公共投資は前期比マイナス0.5%と2四半期連続の前期比マイナスとなったが、これは平成28年度補正予算の効果が縮小しているためとみられる。先日成立した平成29年度補正予算の執行は、公共投資の下支えに今後寄与することが期待される。

また、2017暦年について、名目GDPは546兆円と過去最高を更新した。暦年の実質成長率は前年比1.6%、名目成長率は前年比1.4%となった。

景気については、ゆるやかに回復していると認識している。

2．先行きについては、海外経済の回復が続く下、各種政策の効果もあいまって、雇用・所得環境の改善が続く、消費や設備投資など民需を中心とした景気回復を見込んでいる。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

3．政府としては、「生産性革命」と「人づくり革命」を推進し、経済の好循環を更に確実なものとするため、平成29年度補正予算を迅速かつ着実に実施するとともに、平成30年度予算及び関連法案の一日も早い成立を図る。

（以上）